

# アーチルニュース ちえなっぷ

発行元：仙台市発達相談支援センター 〒981-3133 住所：仙台市泉区泉中央2丁目24-1  
TEL：022-375-0110 FAX：022-375-0142 e-mail：arch1@luck.ocn.ne.jp

<http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou/>

## 「つながるしくみ」を地域の中に

今回は、学校と連携してのとりのしくみ（2月18日の「発達支援フォーラム」で報告）と、余暇活動支援ネットワーク「ゆらねっと」の特集です。

今後、進められる特別支援教育や、余暇活動を充実していくには、本人を中心に保護者や地域の人々などが連携していくしくみやとりのしくみが必要となります。このしくみは、特別支援教育では、「個別の教育支援計画」（以下、支援計画）と「特別支援教育コーディネーター」（以下、コーディネーター）があげられます。また、余暇活動の充実のためには、「ゆらねっと」のようななかま同士が「つながるしくみ」が必要となります。

発達支援フォーラムでは、新学期を迎えた保護者や担任教師の不安等のメッセージを受け、保護者と学校とアーチルが協働し「支援計画」を策定した試みや、養成研修を受けたばかりの「コーディネーター」としてのとまどい、校内支援体制づくり、担任や「コーディネーター」を教頭や校長先生がどのようにしてバックアップしていったか、等について報告されました。このとりのしくみの中で「コーディネーター」は、校内では研修の企画・運営、支援体制づくり、外部の機関との連絡調整の窓口、保護者支援の窓口の役割を果たしていました。すなわち、「コーディネーター」には、学校内では担任とこれを支える校内支援体制づくり、そして保護者と外部の機関及び地域の人々をつないでいく役割が期待されていたのです。「支援計画」は、福祉・医療・労働等の関係機関と密接な連携の下、子どもたちの生活全体を豊かなものとするために学校が中心となりつくっていくものです。従って、この計画策定そのものが学校が発信する「つながる」とりのしくみとなるのです。

子どもたちが学校で過ごす時間は、全生活時間の13～15%にすぎません。ですから、「支援計画」は、学校生活だけでなく休日の過ごし方や保護者への支援も含めた計画となるのです。「ゆらねっと」は、アーチルの青年グループの呼びかけによってできたネットワークですが、「ひとりじゃないよ、つながろう、つくろう、ひろがろう」をコンセプトに、保護者と地域の支援者などが活動をしています。このコンセプトは、地域で暮らす学齢期の子どもたちにも共有されるものと考えます。子どもたちが地域で安心して暮らしていくためには、幾重にも「つながるしくみ」が地域の中に必要となります。必要だと気がついた者から発信し、つながり、力を合わせ、知恵をだしあい、創っていくのです。

発達支援フォーラムでは、学校とのネットワークをつくる試みを報告しました。アーチルでは、今後、幼稚園や保育所と小学校、小学校と中学校、中学校から高校、さらに、就労関係者等とのネットワークをひろげていくとりのしくみを行っていきたいと考えております。

所長 末永 カツ子

697名が  
参加！

# 発達支援フォーラム IN せんだい 開催！！ ～特別支援教育との連携・協働に向けて～

2月18日（土）  
楽楽楽ホールにて

今回のフォーラムは、発達障害者支援体制整備事業の一環として、4つの小中学校とアーチルとが連携した取り組みを報告しました。当日は、厚生労働省の大塚専門官、兵庫教育大学大学院の拓植教授からの講演もいただきました。今回のちえなっぶでは、フォーラムでの各学校の実践報告から、「特別支援教育と地域の生活支援との連携・協働の意義」、「それらを推進するコーディネーターの役割」、「一貫した支援体制づくりに向けた個別の支援計画の意味」について考えてみたいと思います。



(フォーラムの様子)

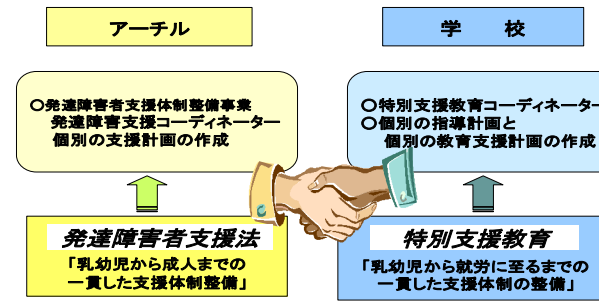
## 学校とアーチルと連携するモデル事業がスタートしました！

発達障害者支援法が施行（平成17年4月）され、10月にはこの法律に伴い事業化された「発達障害者支援体制整備事業」が開始されました。この事業は地域の中で乳幼児から成人までの一貫した支援体制を構築していくことを目的としています。この事業を推進するに当たっては、学校との連携を図ることとなっています。

今回、地域で「特別支援教育」をすすめている学校と一緒に、子どもと保護者を中心に以下のことに取り組んできました。

具体的には、教員の発達障害への理解を深めることを目的とした全教員参加による「事例検討会や研修会」、他の保護者への啓発を目的とした「PTA向け研修会」、本人を中心に置きながら、保護者・学校・アーチルとの「個別の支援計画づくり」です。

また、この取り組みについて、各学校の情報交換や課題を共有し、相互に支援しあう場として、「学校・アーチル連携会議」を、教育相談課・障害企画課も出席し開催しました。



(福祉と教育の連携)



(事例検討会)



(連携会議)

## フォーラムでは4つの学校との取り組みを報告しました！ (東長町小・袋原小・幸町中・人來田中と)

各学校から報告された内容について、いくつか紹介します。

### ○ 特別支援教育と地域の生活支援とが連携することによって

「学校だけで、自分たちだけで頑張らなくてもいいことに気づいた」、「保護者・学校・アーチルが本気で話し合うことが解決の糸口になる」等が話され、この取り組みを続ける中で、お互いの意識が変化していくことの大切さについて報告されました。

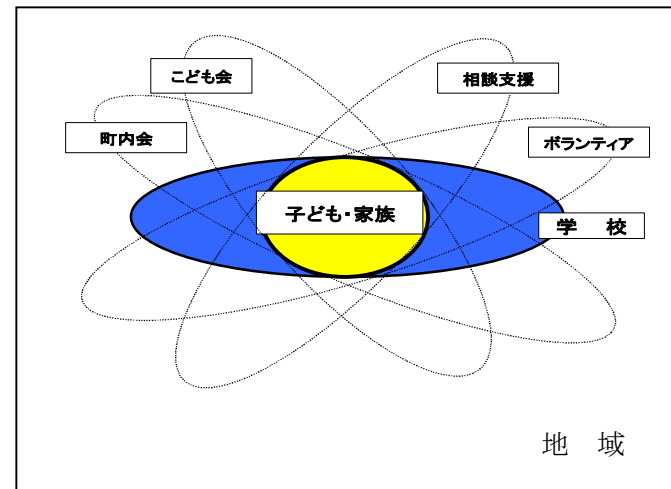
また、校内の「特別支援教育委員会の設置」、小・中学校合同での個別の支援計画づくり、中学校の卒後を見通した個別の支援計画づくりが必要であることも確認できました。

### ○ コーディネーターとして

子どもの声に耳を傾け、「子どもを中心に考えていく」という視点を共有できる機会を創っていくこと、「お互いの顔が見え、本音と言えるチーム」を創っていくことが大切ということが報告されました。

### ○ 個別の支援計画をつくることについて

一貫した支援体制づくりに向けて、子どもを中心に、子どもの将来まで見据えて、保護者の思いも聞きながら、保護者・学校・アーチルがお互いに隠すところなく考えを出し合っ、「支援計画を作ることが大事」ということが報告されました。また、支援計画を作ることだけが大事なのではなく、「支援計画をつくる過程も同様に重要」であることも報告されました。



(地域におけるネットワーク)

## フォーラムから見たこと・考えたこと

この取り組みを開始する前には、本人・保護者・学校・アーチルもそれぞれ課題を持っていました。しかし、他機関に一方向的に紹介したり、情報を求めることに留まっている状況でした。

今回の取り組みから見たことは、ひとりでは解決できない課題が出てきた時に、その課題解決に向けて、本人を中心に、関係者（支援者）が対等な立場で、本音を出し合いながら共に活動することで、それぞれの支援者の意識が変わり、新たな取り組みに対して前向きになれるということです。

そして、「新たな関係」が築かれていくことで、お互いの機関に対して期待し、求め合う内容が変わっていきます（子どもの対応だけを考えるのではなく、子どもの将来を見据えながら、今何をすることが大切であるのか等）。「連携」が求められる理由はここにあります。

このようなつながりをつくり、担うことが「コーディネーターの役割」です。そして、支援の目標を共有する手段の一つに「個別の支援計画」があります。

## 地域での支援体制づくりに向けて！

学校との連携した取り組みは始まったばかりです。今回のフォーラム開催も地域支援体制づくりの第一歩であると考えています。

発達障害児・者と家族は、学校での生活以外の場面でも多様な困難を抱えていることが少なくありません。それらの困難を解決するためには、地域のいろいろな方々や社会資源とつながりあうことが必要です。このつながりがネットワークです。学校も相談支援機関（アーチル、区役所等）・子ども会・町内会・ボランティア等と重なりながら、「顔が見える関係」になることで、発達障害児と家族は安心して地域で生活できると思います。

さらに保育所・幼稚園・成人施設等とも同様の支援ネットワークが形成されることが、乳幼児から成人期まで安心して生活できる地域づくりにつながっていくと思います。

今後も4つの学校との取り組みは引き続き行なっていきます。また、この事業で確認された「連携・協働の意義」及び「地域での一貫した支援体制」に向けたネットワークの重要性を踏まえ、保育所・幼稚園から学校、学校から就労等への「ネットワークづくり」も進めていきたいと思っています。



# かけはし

「アーチル」とは「アーチ (arch: 橋)」と「パル (pal: 仲間)」とをかけたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思ひます。

ひとりじゃないよ！みんなで、つながろう！つくろう！ひろがろう！



## ～「ゆらねっと」に参加しませんか？～

「ゆらねっと」とは？

平成 17 年 6 月にできた、余暇活動支援について考える集まりです。当事者、保護者、支援者が対等な立場で協力し、当事者の声を第一に考えて余暇活動と交流と仲間づくりについて話し合ってきました。

つながろう！

「遊(んで)楽(しむ)」ネットワーク

=「ゆら(遊楽)ねっと」

友だちがほしい！話したい！

家と職場との往復だけではストレスを解消できないよ！

休日ののに一人でヒマだ…

当事者

余暇活動の場の必要性はわかっているけど、始めの一步が一人では踏み出せない…

うちの子にも、同世代の友人がいたらいいのに…



保護者

仲間と楽しく過ごして欲しいけど機会も場所もない…

ネットワークがない。一人、一つの機関だけでは難しい…



支援者

「友達との交流の場を作りたい」「話し合いだけではダメ！実際に組みながら考えていきましょう！」という当事者、保護者、支援者の声があり、余暇活動支援ネットワーク「ゆらねっと」をつくり、月に一回の話し合いが始まりました。

つくろう！

どんなことをしているの？

平成 18 年 2 月、当事者による企画「友だちたくさんつくりましょう 2」を開催しました。最初は緊張していた人も、遊びを通してのさりげないやりとりから、徐々にリラックスしてきて、交流を深められました。3 月には、第一回「ゆらねっとサロン」を開催して、「レストランぴあ」でケーキを食べた後で、みんなで「風船バレー」を楽しみました。



仲良くなれたから、これからも月に一回はみんなで集まって、楽しみたいね！

交流の場がほしい！一緒に楽しむ人がほしい！ネットワークを作ろう！（当事者から）

ひろがろう！

～もっと輪を広げつながりたい！一緒に楽しみましょう！～

「もっと身近な場所で、いろいろなことができ、もっと楽しめる場がほしい」との願いに応えるためには、ネットワークが必要です。何故なら、一人だけでは、一つの組織だけでは、活動を継続して支えることも、新しく作っていくことも難しいからです。「ゆらねっと」では、「余暇活動」「交流」「仲間づくり」に取り組み始めています。一緒に考えたい方、一緒に活動してみたい方はネットワークに、是非一緒に参加してみませんか！

TEL 022-375-0110 「ゆらねっと」後藤（アーチル内）まで！

次回の「ゆらねっと」の話し合いは、4月24日（月）6時からアーチルで行います！ご参加の際には、事前にご連絡ください！

### 編集後記

本号では、生まれたての2つの新たなネットワークを紹介しました。今後、誰もがつながりを実感し、安心して生活できる地域となるよう、これらの活動を広げ、育てていきたいと考えています。

フォーラムの報告をホームページに掲載しますので、ご覧いただきたいと思ひます。（首藤）